



第89号 (季刊)
平成21年1月
田中野田町内会

<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>



平成21年の新年を迎えて

田中野田町内会長
和気 健

新年明けましておめでとうございます。

ご家族お揃いで輝かしい平成21年のお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。平素より田中野田町内会運営にご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本年いよいよ岡山市が政令市に移行します。大都市の仲間入りが果たせることで、大きな飛躍が期待される所です。また、市民としては、このチャンスが市政の発展にうまく結びつなればと願わずにはおられません。

我が町内会も、地域の発展に伴い会員の増加は右肩上がりの状況で、世帯数で650世帯という大きな町内になりました。住民同士の関係も希薄になりがちですが、改めて町内会って何なのか考えて見たいと思います。暮らしに直結する組織でありながら、何のために存在しているのかよくわからない人も少なくないのではないかと。

防災訓練、ゴミ置き場の設置・管理、そして、住民の親睦等の目的がありますが、果たして本当に必要な組織なのか、組織が形がい化しており、住民の思いに込えているのかと言った問題が全国各地で提起されているようです。

そもそも町内会は、七世紀の徴税を目的にした隣組のような制度、又は江戸時代の五人組が起源とされています。

現在の、町内会制度は、1940年に、国が行政組織として設けたのがはじまりで、国民の相互扶助や監視が目的でありました。また、戦争遂行の末端組織となったことから終戦後の1947年町内会は、GHQに廃止されたが、日赤奉仕団や文化委

員会などの形で、実質的に存続していたのでした。1952年、サンフランシスコ講和条約の締結でGHQの政令が失効し復活したのであります。

GHQが恐れたものは、日本の国家意識の形成に町内会が深く関わりをもち、国民の団結の基礎組織であったからに他なりません。

国を受する気持ちは、家族を受し、地域を受し、属する市町村を受する心と一つのものとして繋がっているのです。言い換えれば、国を受する気持ちは、政令市岡山を受する気持ちや自分達の町内会を受する気持ちと同じなのであります。

ただし、戦前と比べ町内会組織は全くの任意組織であり、壊そうとすれば簡単に壊せることができ、しまう不安定な状態で、危険な要素等全く持ち合わせていません。

内閣府の06年度の国民生活モニター調査では、町内会の役割として、行事などの住民相互の連絡、自治体からの情報連絡、祭りなどが期待されているようです。

GHQが恐れた町内会の復活はありえませんが、地域を受する気持ちがお互いになれば、暮らしやすい社会の実現はありません。

今年も田中野田町内会をお支え頂きますようお願い申し上げます。

